

**令和3年度第2回神奈川県公立大学法人  
神奈川県立保健福祉大学評価委員会 議事録**

**議題1 業務実績報告書（案）について**

---

保健福祉大学から参考資料「質問に対する回答」について説明した。

○鹿島委員（教員の）自己都合退職の理由はどのようなものであったか。

○保健福祉大学 多くは他大学にステップアップするケースだった。

事務局から資料1～4について説明した。

○梅原委員長 まず、自己評価に対し委員評価を下方に修正する必要を検討すべき4つの小項目について審議したい。

小項目4（国家試験合格率）、小項目9（実践教育センター）、小項目32（自己収入）、小項目33（光熱費等の節減）の4項目について、コメントの修正等を検討したい。

また、評価は分かれていないが、小項目17について、図書館の利用について具体の取組みを提示してほしいというコメント内容についても検討したい。

○鈴木委員 大学に質問したい。例えば小項目4では数値目標に対する自己評価がAとBであり、他の項目はAが3つとなっている。本項目の総合評価した結果がAとなっている。この評価は、各項目の評価を平均して算出しているのか。

○保健福祉大学 基本的には平均した数字をベースに考えている。

○鈴木委員 承知した。

**【小項目4】**

○梅原委員長 小項目4のコメントについて、確かに目標の数値には達してはいないが、達成率は87%を超えていた。よって、例えば「国家試験合格率が目標値に達してはいないが、ほぼ目標を達成しているので自己評価は適切である。今後もしっかりと取り組んでいただきたい。」というような文章に変えることで対応してはどうか。

○鹿島委員 国家試験合格率は目標値100%を達成しているものがあり、ほとんどの国家試験合格率が全国平均を超えている。よって、梅原委員長の案でよいと考える。（異議なし）

○梅原委員長 小項目4については、私の発言した内容で事務局に考えてもらう。

### 【小項目 9】

○鈴木委員 「今後は、実践教育センターの本分として、感染を未然に防ぐための人材育成を強化する方向を模索すること、パンデミックは新型コロナウイルス感染症に限られるものではなく、長期的な視点でのご議論に期待します」というコメントは私が書いたもの。事前質問への回答に「強化する」とあったので、このようなコメントにしたが、素案で「強化」ではなく「継続」という表現にした理由は何か。

○梅原委員長 まず大学からコメントがあればお願いします。

○保健福祉大学 回答にも書いたように、感染管理認定看護師の養成を行っている。今般、コロナ禍のもと、定員を30名から45名に増員して継続している。よって、「強化」と書くのか、例年通り引き続き行っていくという言葉にするのか、特段大きな差はないが、継続して教育を行っていくということで（事前質問に対し）回答させていただいた。

○鈴木委員 （表現に関しては）特にこだわりはないので、これまでの取組みをさらに継続してもらえればと思う。大変な仕事をした1年で、これからも負担が続くと思う。期待している。

○梅原委員長 「継続」でよいかと思うがいかがか。（異議なし）

○事務局 評価区分がSとAに分かれている。委員会評価を確定していただきたい。

○梅原委員長 平均値の評価（A）で良いと思うがいかがか。（異議なし）

### 【小項目 32】

○梅原委員長 自己収入に関する項目なので、コメント素案では「収入における自己収入割合を高め、財務内容の改善に努める」としているがいかがか。

○鈴木委員 収入で差し支えないのでは。（異議なし）

### 【小項目 33】

○梅原委員長 （光熱水費の減やペーパーレス化について）大学の自助努力なのか、コロナ禍の影響なのか、という部分について、コメント素案の通りでよいか。

○鈴木委員 コメント素案は冗長となっているため、事務局でまとめてもいいのでは。令和2年度の経費は、新型コロナウイルス感染症の影響で自然と減少している。その部分と、努力の成果の部分をつけて説明できたらよかったのでは考える。ただし、評価を下げるという趣旨ではなく、説明の方法の問題である。

○梅原委員長 確かに文章が長いので、趣旨を変えずに事務局で作り直すということで検

討したい。

○**鹿島委員** 新型コロナウイルス感染症によつての削減とそれ以外の削減と、区別できるものか。これは非常に難しく、なかなか区別できないのではないか。

○**梅原委員長** そのあたりも含めて検討させていただきたい。

○**鈴木委員** 少なくとも、積立金として整理すると明確におっしゃっているので、切り分けられているのだらうと認識していた。難しいだらうと私も思う。

○**梅原委員長** 工夫して文章を作成しようと思う。

○**事務局** 評価区分の確定をお願いしたい。

○**梅原委員長** 数値通り（A評価）でよいか。（異議なし）

#### 【小項目 17】

○**梅原委員長** 小項目 17 の図書館利用について、コメント素案のとおりでよろしいか。（異議なし）

○**梅原委員長** 不一致であった残りの小項目について順に見ていきたい。

【小項目 1】 異議なし

#### 【小項目 3】

○**長野委員** 評価をSにしてはどうかとコメントした。しかし、資料4や5を見ると、Aにした評価基準がわかったので、Aでよいと思う。（異議なし）

【小項目 5、7、8、10、11、18、20、24、25】 異議なし

#### 【小項目 29】

○**鈴木委員** 前回の質問と回答を踏まえ、役員会と経営審議会はそれぞれの役割があるが、同時開催とすることでより意見交換が可能となっていると理解した。それぞれの中での充実した議論に期待したいので、その旨をコメントに付け加えてもらいたい。

○**保健福祉大学** そのような方向でやっているつもりなのだが、同じような思いで今お話を伺った。文言の追加について、事務局と調整したい。

○**梅原委員長** 評価区分に関して、多数の委員が付した評価でよいか。（異議なし）

○**梅原委員長** 委員の評価が一致している部分についてもご意見があれば伺いたい。

## 【小項目 22】

○**鹿島委員** 小項目 22 の学生の経済的支援について、詳しく伺いたい。（公立大学であるため）経済的な問題を抱える学生がいるのではないかと想定する。支援している学生数も多い。きめ細かな、積極的な支援は行っているか。

○**保健福祉大学** 昨年度は、経済的に極めて困窮している学生については、高等教育無償化の制度が有効に機能した。さらに重層的に国の補正予算で支援が追加された部分があり、それを使いながら、大学では幹部職員のボーナスを一部カットして、経済的に困窮している学生に対する支援の財源とした。その財源を使って国の制度で不足する部分を埋めた。また、貸与できるPCを確保するための財源にもするなど、総合的な観点で対応してきた。昨年度の授業料の納付期限についても、前期は5月から9月に、後期は10月から12月に延ばした。分納の相談についても今まで以上に柔軟に対応しながら対応してきた。

○**鹿島委員** すばらしいことだと思う。対象学生の選別は、学生からの申請か、あるいは大学からヒアリング等のサーベイにて行うのか。

○**保健福祉大学** 国の制度については、その制度に従って照会をかけ、ヒアリングし、認定して運用していた。

○**鹿島委員** 承知した。

## 【その他】

○**長野委員** 「その他」のコメントとして書いたが、自己評価した先生方が、新型コロナウイルス感染症の影響を同じ判断基準で評価していたか。大学として、申し合わせのようなものがあつたか、それとも先生個人の判断に任されていたものか教えてほしい。

○**保健福祉大学** 今の質問は、全体として、それぞれの教員等が評価しているが、統一した視座できちんと対応しているのかどうかという質問の趣旨で良いか。

○**長野委員** そうである。

○**保健福祉大学** 累次に及ぶ関係する会議で目線を合わせながら対応してきた。PDCAサイクルが評価委員会との関わりの中で、大学の経営・運営にうまく機能するように、例えば前年度、委員の皆様からいただいた課題やご意見が、その課題を乗り越えるような年度計画になるように設定し、それが年度の執行を通じてきちんとできているかどうかを皆さんで見えていく、という自己評価の観点で評価委員会の皆さんの知見やご意見が大学の発展にうまくつながるように配慮しながら統一した視座で展開してきた。

○**長野委員** 承知した。

○**鈴木委員** 「その他」等で書いたが、常勤職員のうち、教員の人数について、恒例だが

必ずしも採用しきれていないところで、クロスアポイントメント制度や他キャンパスの教員が講義を行うなどして実際の教育へは影響は出ないように進めていると理解している。こうした形をしばらく続けてきて、今のところ人員構成としてはどうお考えか。クロスアポイントメント制度や、他の学部の教員に来ていただく方がむしろ有意義なこともあるのかもしれない。

○**保健福祉大学** クロスアポイントメント制度は、いま活用しているが、本当に困った時に効果的に様々な優秀な知見を使える、極めて大学運営にとって梃になる手法だと思っている。現状においては現在のクロスアポイントメント制度の活用水準で大学は回っているが、今後、多様な価値観、あるいは様々な課題に大学は向き合っていかなければならない。その時に人材等の問題が出てくる時に、クロスアポイントメント制度の利活用の可能性というのをさらに追求し、大学の発展につなげたいと思っている。

○**鈴木委員** 常勤の教員を充足できなかったことがマイナスなのかというと、むしろプラスの面もあったのかもしれないということだろう。整理していただき、予算策定の折などにそういったお考えを反映できるとよいと思う。

○**竹村委員** 全体的に良いかと思う。コロナ禍でよくやってきたと感心している。今回の話題とは外れるが、新型コロナウイルス感染症は現在進行形である。特にデルタ株の流行の中では、昨年までの、あるいは今までの成功経験が役に立たないこともあるので、さらに警戒しながら運営にあたってほしい。学生が感染してしまう機会もこれから増えてくると思う。県医師会の立場だが、よろしく願います。

○**山田委員** 皆さんの話と重複するが、小項目 16 の教員の採用計画について委員会前に質問し、回答していただいた。苦勞していること、努力していることがわかった。我々も良い人材を集めるため日々苦勞している。応募があっても適任者が見つからず想定以上に時間がかかるとのことだが、今後の方向性は。

○**保健福祉大学** 教員の採用は難しい部分がある。いつだれが辞めるのか、定年退職以外の方はその時になってみないとわからない。辞意が表明され、速やかに後任者の公募の手続きに入るが、時期によっても、どの専門領域を募集するかによっても、難しさが違ってくる。人事担当者とも知恵を借りながら、様々なネットワークを活用して情報を得たりしている。手をこまねいているだけではなかなか教員が充足しないという現実がある。教員どうしの情報交換等を密にしたり、大学院を修了した院生がそろそろ教育の場に戻って来ないのかなども考えたりしつつ、採用計画を進めているところである。

○**山田委員** 我々の業界でも、特殊技能を持っている人やベテランの人については紹介で効果も上がっている。

○**梅原委員長** これで不一致の小項目すべてについて議論したこととなる。その他の小項目についてはコメント素案のとおりでよろしいか。（異議なし）

意見を賜ったところは修正する。事務局と（ともに検討し）、委員長一任としたいと思うがよろしいか。（異議なし）

評価区分については、多数の委員が付した評価でよいか。（異議なし）

小項目評価の結果を集計した結果、大項目の評価区分は、数値上はすべてA評価。  
大項目について、数値上の結果とすることで異議なし。（すべてA評価）

## 議題2 財務諸表等・利益処分案に対する意見書について

---

事務局から資料5～7について説明した。  
意見なしとする意見書を決定した。

## 議題3 その他

---

事務局から今後の予定等について伝達した。

### 【質疑応答】

特になし